

不妊治療コーディネーター

川田ゆかり

「今は治療のすべがなく、わたしは15年くらいで失明してしまいました。でも医学と科学の力を信じています。」

まで200組以上の日本人夫婦を受け入れ、人生の手助けをしてきた。

アメリカで最も不妊治療が進むカリフォルニア州では、日本ではまだ認められていない、第三者の卵子提供による治療や代理出産が認められている。同センターでは20年以上の経験を持つカール・ハーバート院長率いるバシフィック生殖医療センター（旧称・S.F.生殖医療センター）と提携し、不妊治療のコーディネーターを行う。

「不妊治療に関しては日本に明確な差があります。カリフォルニアは第三者が関与した生殖医療の歴史が深く、経験も豊富で信用できます。」

加州では医療技術以外にも心理的、法的、倫理的、社会的に患者が安心して治療を受けられる態勢が整っている。医者と距離感が近く、治療は予約制。

患者のために個室と時間確保されている。一番利用者の多い卵

配、治療の立ち会いも行う。

「治療を始める前に

授かったが（身近に相談できる人の存在が大切）」と実感、自己の経

験を現在の治療方針に生かしている。

起業のきっかけはごく自然なものだった。

「駐在員夫人から頼まれて、忙しいご主人の代わりに病院へ付き添い、手伝ううちにそれが本業になりました。」

以前医療器機会社で産婦人科系の医療を研究したことがあり、その経験から普段の会話には使用されない医療用語が、わたしには自然に入っていました。



川田ゆかり（かわだ・ゆかり）

1959年、北海道生まれ。16歳で渡米、加州の語学学校からコロラドの公立高校、コロラド大へ進学した。経営、コンピューター情報処理、マーケティングを学び、大学院では経営学修士号（MBA）を取得した。その後ジョンソン・アンド・ジョンソン社でレーザーメスの開発プロジェクトに参加、産婦人科系医療の研究に携わる。そこで得た知識を基に95年、イントロメッドInc.、インターナショナル・ファーターティリティー・センター（IFC）を設立。同社の社長を務める。90年に結婚、1女がいる。

医学信じて命の支援

夫婦が本当にそのプログラムを望み、その治療が最適なのかを話し合います。実は周りからのプレッシャーで子供が欲しかっただけ、という患者もいます。治療に振り回されるのではなく、ご自身の人生としてどう考えるのかを一緒に考えます。とカウンスリングの重要さを熱心に語る。

彼女自身、不妊に悩んだ時期がある。しばらくして自然に子供を

授かったが（身近に相談できる人の存在が大切）」と実感、自己の経

験を現在の治療方針に生かしている。

起業のきっかけはごく自然なものだった。

「駐在員夫人から頼まれて、忙しいご主人の代わりに病院へ付き添い、手伝ううちにそれが本業になりました。」

以前医療器機会社で産婦人科系の医療を研究したことがあり、その経験から普段の会話には使用されない医療用語が、わたしには自然に入っていました。

「今は治療のすべがなく、わたしは15年くらいで失明してしまいました。でも医学と科学の力を信じています。」

IFCと提携している、サンフランシスコ市内の「バシフィック生殖医療センター」が入ったビル。コイト・タワーが望めるビルの周辺は、静かで落ち着いている。同センターには、排卵誘発を用いての人工授精、通常の体外授精、ドナー卵子による体外授精、代理出産などのプログラムがある。医療チームは全員が生殖内分泌学および不妊治療の認定医で、不妊に悩む夫婦の治療業務を専門に行っている。一般産婦人科のケアは提供していない。詳細はウェブサイト<http://www.infertilitydoctor.com>まで。また、IFCのウェブサイト<http://www.intronia.com>でも閲覧できる。



*使用している記事などに問題がある場合はIFC宛て御連絡ください。

苦難乗り越え道貫く